

第13回アジア太平洋災害医学会において最優秀ポスター賞を受賞しました (2016/11/7-8)

テーマ：ともに備え、ともに対応しよう

会場：Radisson Blu Plaza (バンコク、タイ)

2016年11月7日(月)～8日(火)にバンコクで開催された第13回アジア太平洋災害医学会(APCDM)において、当研究所の江川新一教授(災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野)が最優秀ポスター賞を受賞しました。

APCDMは2年に1度、わが国とアジアを中心とした災害医療の研究者・実務者が集って災害医療について研究発表し、情報共有を行う場です。バンコクにあるタイ国立緊急医療研究所(NIEM)が第13回として主催し、300名を超える参加者がありました。

江川新一教授は、システムダイナミクスを用いた災害時の医療ニーズシミュレーションモデルをポスターとして発表し、2日目の表彰式において最優秀ポスター賞を受賞しました。背景人口、高齢化指数をもとに、外傷、リハビリテーション、感染症、非感染性疾患(Non-Communicable Disease: NCD)、母子保健、メンタルヘルスなどの様々なモジュールにおいて、被災地の医療ニーズを決定する要因に分解し、それぞれをコントロールするダッシュボードを作成したもので、災害保健医療対応の意思決定に役立つモデルとして、高い評価を受けました。

日本集団災害医学会はAPCDMの設立に深くかわり、学術集会は日本と海外と交互に2年おきに開催されます。日本の災害医療体制と、教育体制はアジア各国、特にタイから高い評価を受けており、日本とタイの間で、共通のプログラムによる災害医療従事者研修がすでにスタートしており、その動きをさらにASEAN各国に広げようとするARCHプロジェクトが始まっています。会期中にARCHプロジェクトのミーティングもあり、各国からの参加者と、サポートしているJICAが情報共有を行いました。実際に災害が起きたときに近隣諸国から救援するために必要な標準化や手続きを推進するワーキンググループ、災害医療の教育と研修の標準化を推進するワーキンググループの2つが組織化されつつあり、大きな進歩が得られています。また、助け合うためにも、各国の災害医療体制を強化することの重要性が協調され、日本の災害医療体制はその良いモデルとなっています。今後さらなる国際交流と研修に対する高いモチベーションが醸成され、日本の若い保健医療従事者にもぜひ参加してもらいたいと感じました。

タイ国民をつねに第一に考え行動されたプミポン国王を悼むビデオが放映され、タイ国民の方々の国王を愛する気持がよく伝わり、感動を覚えました。

来年の学術集会は兵庫災害医療センターの主催で神戸にて開催される予定です。



学会場の様子



ARCHプロジェクトについて討論する
各国の代表